平成 24 年度第 7 回企業向け人権啓発講座

第３分科会

企業・支援学校卒業生・在校生から

発表（１）就労に向けての取組

京都市立白河総合支援学校　産業総合学科　農園芸３年　宮嶋　累

発表（２）企業・就労している卒業生からの発表

＜第１部＞洛和会ヘルスケアシステム・洛和ヴィライリオス

ア　洛和会ヘルスケアシステム・洛和ヴィライリオス，鳴滝総合支援学校卒業生
髙橋　利也

イ　洛和会ヘルスケアシステム・洛和ヴィライリオス主席係長
村上　大輔

＜第２部＞洛和会ヘルスケアシステム・洛和会デイセンター右京山ノ内

ア　洛和会ヘルスケアシステム・洛和会デイセンター右京山ノ内，鳴滝総合支援学校卒業生
大川口麻美

イ　洛和会ヘルスケアシステム・洛和会デイセンター右京山ノ内管理者
橋本　寿

－ 発表（１）講演録 －

皆さん，こんにちは。私は京都市立白河総合支援学校農園芸３年生の宮嶋累と申します。全体会では職業学科の取組についてお話しましたが，今から，私が通学している白河総合支援学校の紹介と，私が取り組んだ実習やそこで学んだことについてお話させていただきます。よろしくお願いします。

始めに，白河総合支援学校の紹介をします。私たちは，卒業後は企業で働きたいという夢を持って入学します。そのため，学校には働くことを学ぶ四つの専門教科があり，入学したときからそれぞれの専門に分かれて，働くための基礎を学習しています。

食品加工では，毎日色々な種類のパンと，ラスクやクッキーなどの焼き菓子を作っています。製品は校内にある喫茶室で販売していて，地域の皆様がたくさん買いに来られます。どれもおいしくて，毎日すぐに売り切れてしまいます。

私が学習している農園芸では，年間 100 種類くらいの無農薬野菜を作っています。作業は，暑いときも，寒いときも，雨の日も行います。午後からは大八車で近所を売り歩きます。皆さん，とても楽しみにしてくださっています。

情報印刷では，パソコンを使って名刺やパンフレットを印刷しています。注文に応じた丁寧で正確な

作業が必要です。また，校正のためにファックスやメールを送ったり，お客様の所に納品に伺ったりすることを通して，コミュニケーションの方法を学んでいきます。

地域コミュニケーションでは，学校のほかサテライト教室があり，施設内の図書館運営や，近辺のデイサービスセンターや保育所での演習を通して，サービスを提供する学習を行っています。学校でも高齢者体操教室や配食サービスなど，地域の方と一緒に活動する機会が増えてきています。

流通サービスは，全員が学ぶ専門教科です。校内にある喫茶室や寮生サテライトカフェでの接客の演習は，１年生から行います。マナー研修も年に１～２回あります。挨拶や名刺交換の仕方などは，日常生活や実習に行ったときにとても役に立っています。

このような専門教科のほかに国語，数学，英語，情報などの共通教科の学習もしています。また，白河では１年生からたくさんの皆さんに協力していただいて，実習をしています。働く体験を通して，自分のできることや苦手なことが分かり，これなら頑張れるというものを見付けていきます。

ここで，私の今までの実習を振り返りたいと思います。

１年生では，始めに集団でのインターンシップに行きました。インターンシップは担任の先生とクラスの仲間５人が一緒です。ここでは働くための基本として，挨拶や返事，報告の仕方，遅刻や欠勤をせずに交通機関を使い通勤すること，実習ノートの書き方などを学びます。その後，１人での実習が始まりました。スーパーのバックヤードでは，開店前の掃除や野菜の計量，袋詰め，品出しなどをしました。農場での実習は，大きな畑での作業でした。決まった間隔を空けて苗を抜き取る仕事をしました。ずっと腰をかがめての作業だったので，腰がとても痛く，一列終わるごとに腰を伸ばしていました。また，この頃はコミュニケーションを取るのが苦手だったので，ミスをしたことを自分から報告できませんでした。

２年生になると，１年生のときとは少し違った気持ちで実習に取り組むようになりました。おしぼり会社の仕事では，前半は集中力に欠けていましたが，後半はだんだん集中できるようになりました。苦手なコミュニケーションも，自分から進んで取ろうと思いました。おしぼりの種類や箱に入れる数，箱を積む数を覚えて，大体の流れが分かるようになり，１人で先のことを考えて働くようになりました。

２年生の中頃に，部品の組立ての仕事をしました。ここでは２週目の月曜日に遅刻をしてしまいました。休日に夜更かしをして寝坊したからです。休日の過ごし方が大事だと改めて感じました。２年生の後半，物流倉庫業の仕事をしました。ここでは仕事を任せてもらえることにやりがいを感じました。でも，サインを忘れるミスもありました。

色々な実習を体験してみて，声の大きさや集中力，フットワークに課題があることが分かりました。また，興味があった機械の部品の組立ての仕事よりも，次に行った物流倉庫業で仕事を任せてもらえたことに手応えを感じ，自分に任された仕事をやりたいと，はっきり思うようになりました。

３年生になって，先生から車整備補助と洗車の仕事を紹介していただきました。私は元々バイクや車が好きだったので，車関係の仕事と聞いてうれしかったです。また，自分で仕上げる仕事をしてみたいと思っていたので，自分のやりたい仕事にぴったり合っていました。５月から約２週間の実習をしました。１回目の実習では，言われたことをやるだけで，それぞれの仕事のポイントが分かりませんでした。でも，この仕事をやり続けたいと強く思いました。２回目は７月から約１箇月間の実習に行きました。とても暑い時期の実習で，水分をしっかり取って暑い時期を乗り越えました。３回目は９月下旬から11 月の初めまで，長期の実習に行きました。

３年生の実習では，求められる完成度が高くなり，自分でできていると思っていたことが自己満足だったと知ることもありました。今は仕事に集中するために声を出していませんが，今後は接客の声も出さないといけないし，職場の人への挨拶などはいつも必要です。まだまだ声が小さいので，学校でも職場でもはっきりと大きな声で挨拶や受答えができるように練習したいです。

今，私たち３年生はそれぞれの夢の実現のために，色々な場所で実習をしています。一人一人に適した働く場所が必要です。色々な職種や仕事内容を実習で体験できれば，自分に合うものがきっと見付かると思います。企業の皆様の御協力を，是非よろしくお願いします。

これで私の発表を終わります。ありがとうございました。

〇司会

ありがとうございました。今の発表で御質問などございませんか。

私の方からお聞きしたいんですが，洗車については１日何台くらい洗っていますか。時間はどのくらい掛かりますか。

〇宮嶋

１日 12 台くらい洗うときもあります。全部の工程を済ませるのに，１台で 30 分から 40 分ぐらい掛かります。

〇司会

大変ですね。もし学校がお休みの日に出勤された場合，代休などはどうされていますか。

〇宮嶋

私が実習に行ったお店は水曜日定休だったので，水曜日と土日のどちらかを休みにしました。

○司会

それでは，後でまた質問の時間を取ります。どうもありがとうございました。

○宮嶋

ありがとうございました。

－発表（２）＜第１部＞ ア 講演録－

こんにちは。髙橋利也です。よろしくお願いします。

私はこの３月に鳴滝総合支援学校生活産業科を卒業しました。そして，４月１日，社会人として第一歩を踏み出しました。職場は丸太町にある洛和会ヘルスケアシステム洛和ヴィライリオスという介護施設で，主に清掃や介護補助を担当しています。

私は，中学校の生き方チャレンジで老人ホームへ行き，大勢の利用者の方々の笑顔に出会えたことがきっかけで，何か人の役に立てる仕事をしたいと思いました。中学校３年生になり進路を決めるときも，福祉について学べてホームヘルパー２級の講座がある鳴滝総合支援学校に行きたい，そして卒業したら介護施設に就職したいと思いました。

まず３年前に一つ目の夢がかない，鳴滝総合支援学校に入学することができました。大きな夢に向けて，何事にも一生懸命に頑張りました。例えば，専門教科ではクリーニングを学び，国家資格であるクリーニング師の免許を取りました。また，趣味を活かして卓球の大会では何度も優勝し，全国スポーツ大会へも出場しました。

二つ目の夢は３年生のときにかないました。学校で行われるホームヘルパー２級講座の受講が認められたときは，とてもうれしくて涙が出ました。この講座の内容はとても難しく，また実技や実習も厳しいと聞いていましたが，何事にも負けずに一生懸命頑張り，絶対に資格を取りたいと思いました。ここからが自分との戦いの日々で，４月から７月まで３箇月間の講座の勉強や実習は大変でした。生徒同士で介護技術の確認をしたときはうまくいかず，体の動かし方などがなかなか覚えられませんでした。でも，何回か練習をしていくうちに，一つずつうまくでき始めたときは，とてもうれしかったです。講座を通じて，もっと専門的に勉強したい，介護施設に就職したいと思いました。講座での実習は，イリオスで受けることができました。そのときに，初めて食事介助，トイレ介助，おむつ交換など，色々なことをさせてもらいました。実習で直接利用者と関わる機会があり，とても緊張しましたが，「ありがとう」や「大丈夫」の言葉がうれしく，ほっとしました。人に対する優しさ，思いやり，利用者の方々と信頼関係を築く大切さも学びました。

それからあっという間に３箇月がたち，ホームヘルパー２級の資格を取る夢がかないました。講座終了後，イリオスでの就業に向けて職場実習をしました。イリオスは施設がきれいで，各フロアが同じ造りになっているので，場所がとても分かりやすいです。私はデイサービスセンターではなく，介護老人保健施設の担当でした。職員の方々は私を温かく迎えて声を掛け，いつも励ましてくださったので，自分らしさを素直に発揮できたと思います。仕事の内容も職員の方がゆっくりと丁寧に，一から教えてくださいました。分からないときや困ったときには，相談に乗ってもらいました。例えば，利用者とのコミュニケーションがうまく取れずに困っていると，さっと職員がそばに来て，「大丈夫ですよ。すみません。もうしばらくお待ちください」と，具体的に言うべき言葉を教えてもらいました。「技術や知識も大事だけれども，何より利用者の気持ちを思い，距離を縮め，尊敬される職員になりなさい」とアドバイスを受けています。正にそのとおりだと思います。

実習を重ねる中で，私は色々な仕事の内容を少しずつ覚えていきました。各フロアを１週間ずつローテーションで担当したり，職員の人数が足りない場合はヘルプに行かせてもらったりするようになりました。できることが広がり，それが自信ややりがいにもつながっていきました。実習を通じて，絶対にイリオスで働きたいという思いが強くなっていきました。

そして，三つ目の夢が叶い，この４月からイリオスで働けるようになりました。働き出してから７箇月がたちました。働く中で学んだことや感じたことをお話します。

今仕事をする上で一番大切にしているのは，利用者の方々の笑顔と「ありがとう」の言葉です。「毎日きれいに掃除をしてくれて，ありがとう」と笑顔で言っていただけることが，とてもうれしいです。しかし，利用者に心から満足して笑顔になってもらうことは，難しいことだとも感じています。前に喜んでもらったことを同じようにしても，喜んでもらえないことがありました。私はどうしてかと色々と考えてみました。今はまだ利用者の気持ちを十分に理解しているとは言えず，それは時間の掛かることだと思います。

そこで，すぐにでもできることをやってみることにしました。元気な挨拶をして，特に清潔感のある身だしなみを心掛けることです。そうすれば利用者が明るい気持ちになって，笑顔を見せてもらえると考えました。毎日，一生懸命仕事に励み，自分から元気に明るく挨拶をし，身だしなみに気を付けています。

学生のときには，このように自分で考え行動しようと思ったことはなく，働くことを通じて考えるようになりました。仕事に対する責任感と使命感を日々感じているからこそ，私は変わったんだと思います。

そして，利用者や一緒に働く職員の方々が私を支え，見守ってくださっているおかげだと思っています。ですから，皆さんに感謝をし，今度は私が皆さんに恩返しをしていこうと思っています。それには，

更に利用者に満足していただける職員になれるよう変わっていきたいと思います。そして，今の仕事をこつこつと一生懸命に頑張り，新しい仕事を任せていただけるようになりたいです。いつかは介護福祉士の資格を取ることを目指していきたいと思います。初心をいつまでも忘れずに，大好きなイリオスで働き続けたいと強く思っています。

これで私の発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

－発表（２）＜第１部＞ イ 講演録－

洛和ヴィライリオスの村上です。よろしくお願いします。

最初に，介護老人保険施設洛和ヴィライリオスの概要を説明させていただきます。当施設は，平成11年４月１日に開設しました。イリオスはギリシャ語で太陽のことで，「全ての者を育む太陽のように温かく，そして力強く」という思いを込めて，理事長が付けました。施設は市の中心に位置していて，交通の便が良く，家族の面会にも便利な立地条件にあります。また，施設の前に丸太町病院があり，医療の面でも利用者や家族に安心して生活していただける施設です。

イリオスが提供するサービスの種類は，短期入所という１週間くらいのショートステイ（５床），入所（95 床）です。そのほか，通所リハビリテーション，短時間のデイサービス，中京区地域介護予防推進センターなどがあります。

イリオスで働く職種は，医師，看護師，准看護師，介護福祉士など様々で，先ほど発表した髙橋さんの職種は看護助手です。

イリオスでは，アクティビティとして，朝の体操，年間行事計画に沿った様々なレクリエーション，ボランティアなどを行っています。また，「行事クラブ」として，音楽，手芸，体操，書道にも力を入れています。それから，毎月の食事に，花粉症対策，５月病対策などの「テーマメニュー」が決まっていて，利用者に楽しんでいただく催物になっています。

さて，障害者の雇用を促進した背景なんですが，一つ目が洛和会ヘルスケアシステムのトップの判断です。二つ目に，企業の社会的貢献として，障害者を積極的に受け入れるべきという考え方があります。三つ目に，介護の現場では，どうしても利用者の重度化と介護職員の人員不足に悩んでおり，職員は増やしたいが，介護保険料収入は決まっているので人員を増やせないという現状があります。これらの背景によって，障害者の雇用という形に進んでいったんです。

最初に雇用を受け入れる前には，職員の不安も色々ありました。一つ目は，仕事内容の確認です。何をしてもらうのか，どこまでやってもらえるのかが分からないという職員もいました。二つ目は，利用者や職員とコミュニケーションが取れるのだろうかという不安です。三つ目は，どこまでできて，職員はどこまで指導を行ったらいいのかという疑問です。四つ目は，施設ですので，感染や安全などリスク

面の把握がどこまでできるのかという不安が，職員から上がりました。

そのような中で，どうやって不安を解消できたかということをお話します。一つ目の仕事内容の確認については，事前チェックシートを作成して，仕事の内容をまず職員全員が把握しました。二つ目のコミュニケーションについては，職員とのコミュニケーションは就職前に施設で研修を行ってコミュニケーションを深めていく中で，不安もなくなっていきました。ただ，利用者とのコミュニケーションは，耳が遠い方もおられますので，そういう困難な場面には職員が仲介に入ってコミュニケーションを取ることにしました。三つ目のどこまでできてどこまで指導を行うかとことについては，事前に用意したチェックシートを使用して，毎日の就業後に担当者と管理責任者が確認を行いました。チェックシートの中で難しかった項目に関しては，次の日に担当者から説明するという形で不安は解消できたのかなと思います。四つ目の感染のリスク面についての説明と理解なんですが，自分自身が体調不良になると，利用者に移してしまう危険性もあるので，体調管理をしっかり行って利用者への感染源にならないようにすることが大切だということをしっかり説明し，理解していただきました。加えて，標準予防策としての手洗い，うがいの徹底について説明しました。次に，安全のリスク面については，高齢者の方は転倒されたり，車椅子で急に出て来られることがありますので，まず利用者の特性をしっかり説明しました。また，車椅子の安全な移動動作の確認を重点的に行いました。対人援助時にはやはりコミュニケーションが大切ですので，どうしても難しい場合には職員に一緒に入ってもらい，コミュニケーションをしっかり取るよう指導しました。

このような動きの中で実際の雇用が始まり，本人から課題がいくつか出て来ました。一つ目が，仕事に関する職員の説明が分かりにくいということです。しっかりと説明する職員もいますが，分かるだろうと思って簡潔に説明してしまう職員がいたりして，説明の仕方も分かりにくかったのかもしれないと思います。二つ目は，仕事の優先順位が付けられないことです。職員から頼まれている仕事を優先するのか，その場で利用者に言われたことを優先するのかの判断で，戸惑いもあり困ったそうです。三つ目は，利用者とのコミュニケーションです。何を話したらいいのかが分からないという課題が上がってきました。四つ目は，細かな仕事の手順が把握できないことです。大まかな清掃の仕方などは分かるんですが，それを実際にどこまで拭いたらいいのかなどという細かい手順の把握が難しかったそうです。

これらの課題に対する解決策ですけれども，まず一つ目の職員の説明が分かりにくいという点については，仕事の指示を出すときは，一つ一つ何をするのか説明して，終わってから次の指示を出すようにしました。それまでは，同時に複数の仕事の指示を出していたことも結構あったんです。二つ目の仕事の優先順位については，もし分からなくて困ることがあれば，必ず職員に確認を取るようにと伝えました。三つ目のコミュニケーションに関しては，１対１で話すのはどうしても難しいので，職員とボール遊びやレクリエーションなどを行う中で，そこに利用者にも入ってもらって，一緒にコミュニケーショ

ンを取るようにしてみました。それから，昼食を利用者と一緒に食べて顔なじみになってもらい，コミュニケーションを取りやすい環境を整えていくことにしました。四つ目の細かな仕事の手順の把握については，職員が付いて仕事内容を説明することにしました。

このような取組の結果，できることが増えていき，今では多くの仕事をこなせるようになりました。現在行っている仕事は，環境整備と利用者のベッドのシーツ交換です。そのほか，レクリエーション，配茶，コミュニケーション，車椅子の送迎，廊下・居室の清掃など，たくさんの仕事がこなせるようになりました。また，利用者と１対１でコミュニケーションを取りながら，仕事がこなせるようになりました。今は介護福祉士の資格取得に向けて勉強中で，施設としても介護技術の向上を指導内容に入れていきたいなと思っております。

雇用前に考えていた問題点や不安などは，実際に一緒に仕事をしていく中で軽減しました。今では各階の職員から，来てほしいという声が結構多く聞かれるようになりました。利用者からも「今日は来ていないの。来てほしい」という要望が聞かれるようになりました。やはり細かい仕事を丁寧にきちんと行っているからこそ，このような声が出てきたのではないかと思います。現在２名雇用をさせていただいているんですけれども，今後は更に増やしていく予定です。各階に１名ずつ雇用することで，安定した環境の整備と，利用者の援助の指導が行えると考えています。また，雇用する際，一人一人に合った指導方法を実施したいという点については，現在私どもも模索している段階です。

実は，これまでに雇用が継続できなかった事例もありました。事務員としてハローワークから紹介していただいた方でしたが，事前の情報では簡単な事務作業は可能で，パソコンは使用できるということだったので業務を開始してもらったところ，パソコンへの数字入力や書類整理で混乱したり，書類の封入作業でミスが多発してやり直しになったことから，体調不良で欠勤してしまい，結局は雇用を継続できませんでした。できる範囲を超えた業務を与えてしまったことが原因だったと思います。また，単純作業ではあっても，本人には業務が少し分かりにくかったのではないかと思います。

当時は，アドバイスや対応の方法，どこに相談したら良いのかなどが分からなくて，本人も雇用側もつらい思いをした結果，雇用継続ができなくなってしまいました。相談先などが分かっていれば，本人も雇用側も大変安心できるのではないかなと感じました。

私の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。この発表についての御質問などはありませんか。

髙橋さんがこのように勤められるのは，雇用側の丁寧な対応があったおかげかなと私どもは思っております。どうもありがとうございました。

続きまして，同じく洛和会ヘルスケアシステムの洛和デイセンター右京山ノ内の大川口麻美様と大坪律子様の発表です。

〇大川口

こんにちは。私は，今年の３月に鳴滝総合支援学校の生活産業科を卒業した大川口麻美です。今日は，支援学校で学んできたことと，今，実際に働いている様子などを発表させていただきます。

私は生活産業科でたくさんのことを学びました。生活産業科では２年生になると，専門教科がクリーニングとメンテナンスに分かれます。私はメンテナンスを勉強しました。２年生のときには先生の勧めでアビリンピックのメンテナンス部門に出場しました。緊張しましたが，出場することで自分に自信を持つことができました。

実習にも行きました。１年生のときは実習に行く機会が少なかったのですが，２年生の後半には介護施設で洗濯を行う実習に１箇月間行きました。ここでは，利用者のタオルや衣服を洗濯して部屋ごとに分け，シーツやバスタオルなどの大きな物も洗濯しました。ほかにも実習を体験しました。３年生の４月からは，学校でヘルパー２級の資格を取るための講座を受講しました。３箇月間みっちり勉強しましたが，覚えることがたくさんありしんどかったです。車椅子での移動介助，ベッドからの移動介助，汚物交換，食事介助，麻痺のある方の介助などを教えてもらいました。努力した成果があって，ヘルパー２級の資格を取れたときはとてもうれしかったです。

ここで，私が介護の仕事を選んだ理由についてお話します。私には鹿児島県に住んでいる祖母がいますが，病気で足が不自由です。１週間，祖母の手伝いをしたときに，とても楽しい時間を過ごし，もっと祖母の役に立ちたいと思いました。その頃から介護関係の仕事をしたいと思うようになりました。

洛和デイセンター右京山ノ内では３回の実習をしました。１回目は３年生の 10 月に２週間，２回目はその冬に約１箇月間，３回目は就職前実習として卒業してから 10 日間です。１回目の実習では，緊張して何をすればいいのか分からなかったのですが，職員の方が優しく教えてくださいました。毎日たくさんの利用者が来られるので，名前を覚えるのが一番大変でした。主な仕事は，利用者が来られたときのお茶出しと，午前中はフロアで利用者と一緒に塗り絵や折り紙をして過ごすことでした。仕事に少し慣れてきた頃に，利用者が到着されたとき車まで迎えに行ってお連れする介助の仕事もさせてもらいました。２回目の実習は１箇月間でした。利用者の方々が私のことを覚えてくださり，とてもうれしかったです。仕事は大体覚えていたのですが，利用者とどのようにコミュニケーションを取ったら良いのか悩みました。職員の方は「うまくできているよ」と言ってくださいましたが，私は本当に利用者とコミュニケーションを取れているのか，とても不安でした。でも，毎日利用者と接しているうちに，それぞれの利用者によって対応の仕方が違うことが少しずつ分かり，不安もなくなってきました。

私は１回目の実習のときから，洛和デイセンター右京山ノ内で働きたいと思っていました。それは職場の雰囲気が良く，利用者も職員もとても優しかったからです。また実習を重ねるに連れて，仕事内容がはっきり分かり，自信を持って活動できたことが大きな理由です。

そして，私は今年の４月から，念願の洛和デイセンター右京山ノ内で働くことになりました。仕事の内容は実習のときから行っていた利用者の迎え入れ，朝のお茶出し，午前中のフロアの見守り，排せつの介助，おやつのときの飲み物の準備，レクリエーションの補助，利用者の送り出しなどです。

私は，実習のときと職員となってからの自分自身の変化を感じています。今までは，分からないことがあるとすぐに職員の方に聞いていました。今は，一度自分で考えるようにしています。また，４月からはお給料をもらって働いているので，責任感が生まれてきました。仕事には遅刻をしないように，体調管理をしっかりして休まないように気を付けています。また，利用者にけがをさせないように，以前よりも強く心掛けるようになりました。

今後，頑張って取り組みたい仕事は，入浴介助と利用者の送迎です。入浴介助は何回か手伝いに入ったことがあるのですが，お風呂は楽しいです。フロアでの仕事とは違い，１対１でゆっくり利用者と話ができたり，「気持ち良かった」と言っていただけるので，とてもうれしくやりがいを感じます。もっと色々なことにチャレンジをして経験を積み，いつかは介護福祉士の資格を取り，この仕事を頑張り続けたいと考えています。

プライベートでは，４月から独り暮らしを始めました。一生懸命仕事をしていただいた給料を有効に使えるように計画しています。これからも，この職場で自信を持って仕事をしていけるように頑張ります。

これで私の発表を終わります。ありがとうございました。

〇大坪

大川口さんと一緒に仕事をしています，洛和デイセンター右京山ノ内の介護福祉士の大坪律子です。よろしくお願いします。

デイサービスでの仕事の内容は，先ほど大川口さんの方から発表がありましたので，私からは大川口さんを支援学校からの実習生として受け入れ，実習の後職員として迎え，今，頑張ってくれている様子を伝えていきたいと思います。

まず，当デイセンターの紹介を少しさせていただきます。洛和デイセンター右京山ノ内は，昨年の４月に開設した，定員 35 名の通常規模型通所介護施設です。職員は常勤８名，非常勤５名，看護師２名，重度訪問介護従業者１名で，とても明るく楽しい雰囲気のデイセンターです。その中で大川口さんには週に５日，８時半から 17 時まで勤務してもらっています。

大川口さんの実習のお話を聞いたとき，初めての支援学校からの実習生の受入れということで「どんな子が来るのだろうか。ちゃんと仕事を理解してくれるのだろうか」など，戸惑いがありました。しかし職員とも話し合い，本人に会う前にあれこれ考えても始まらないので，本人に会ってから実習の進め方などを決めようということになりました。そして，ここにいる大川口さんが来てくれました。

１回目の実習のときに，大川口さんに，「分からないことは自分で処理せず必ず聞いてほしい」，そして「何か困ったことがあったら，自分で抱え込まずに何でも言ってほしい」という話をさせていただきました。また，色々な職員から仕事を頼まれてしまうと，大川口さんが混乱してしまうのではないかと考え，指導する職員を１人に決め，その職員に付いて仕事を学んでもらうことにして，私が指導役を担当しました。実習も何もかも，一度にではなくゆっくり少しずつ段階を経て進めていきました。最初は少し恥ずかしがり屋で表情も硬かったのですが，日を重ねるごとに笑顔も少しずつ増えてきました。そして物覚えも良く，１回説明したことは確実に行ってくれていました。初めての実習はあっという間に終わり，利用者の中には「また来てね」と涙ぐんでいる方もおられました。真面目な仕事ぶりは評価も高く，職員の間でも，また来てほしいと話していました。

２回目の実習は，１箇月間の長期のものでした。この実習は就職を見据えたものでしたので，実際に勤務してもらったときを想定して進めました。大川口さんは１回目の実習で教えた仕事をきちんと覚えていて，何か就職への意気込みのようなものを感じました。この実習では１日の流れの中で動いてもらい，他の職員の動きも見てもらうように説明しました。デイサービスの仕事は，様々な職種が関わるのでチームワークがとても大切です。ほかの職員の動きを見て，手伝いに行ったり，足りないところを補ったりと，全体を見て動ける力を付けてもらいたいと思いました。少し難しい仕事もしてもらいたいと思い，利用者がおやつのときに飲む好みの飲み物を聞いて，数を合わせ 30 名ほどのコーヒー，紅茶，ジュースなどを準備する仕事をしてもらいました。難し過ぎるのではと心配もあったのですが，数が合わず困ったりしていたのは始めだけで，チェック方法を教えると，実習後半には大川口さんに任せられる仕事になっていました。このことで，他にも色々な仕事ができるのではないかという可能性を感じました。それから，毎日の大川口さんを見ていて感心することがありました。それは利用者の話を聞いたり，接したりするときの優しい表情と距離感です。この距離感というのは本当に難しく，色々なお年寄りの方がいらっしゃいますので，私たちでも非常に苦労します。大川口さんは自然に，一人一人に合った距離感で接してくれていました。これは一つの才能だと思いました。

３回目の最後の実習は，学校を卒業してから来てくれました。このときは，仕事の段取りも頭に入っていて，頭で考えて動くのではなく，自然に動いてくれた印象です。利用者からも「麻美ちゃん」と呼ばれ，とてもかわいがられていて，４月からここで働いてくれることをお話すると，皆様とても喜んでおられました。

そして今年の４月から，洛和デイセンター右京山ノ内の職員として働いてくれています。実習のときから引き続き，デイサービスでの様々な仕事をしてもらっています。

デイサービスの仕事に慣れ，頼んだ仕事を確実に行えるようになった今年の夏頃，今やっている仕事を全部書き出してもらいました。そして責任感を持ってもらうために，大川口さんに任せる仕事というのを幾つか考えました。それらの仕事は，今も責任を持って頑張ってくれています。

また介護技術の力を付けてもらうために，洛和会でＯＪＴ研修を行っています。これは仕事をしながら指導していく教育システムで，採用時，１箇月後，３箇月後，半年後に，指導者がチェックし到達度を見ていくものです。歩行介助，車椅子の介助，ベッドへの移動介助，排せつ介助，食事介助，更衣介助など，多岐にわたり細かなチェックができます。大川口さんにもこの研修を，採用時より実施しました。研修を行って感じたのは，支援学校のヘルパーの実習でかなりしっかり勉強してきているということです。学校で食事介助や半身麻痺の方の更衣介助も繰り返し行っていたと聞き，学校での実習の充実ぶりに感心しました。

４月から機会を見て，入浴介助にも一緒に入ってもらっています。始めに入浴の手順を説明すると，私たちの動きを見て，安全にスムーズに行ってくれています。大川口さん自身も入浴介助をしてみたいという希望を持っていたようで，終わった後「利用者の方とゆっくり話もできて楽しかった」と話してくれました。お風呂では普段とは少し違う利用者の様子を見ることができ，リラックスされて話も弾みます。きっと大川口さんも入浴介助に入ることで，介護の仕事の楽しさやおもしろさを感じてくれたのではないかと思います。

最近ではレクリエーションにも挑戦してくれています。10 月には初めて自分でゲームを考えてくれました。インターネットで探したそうで，ダンボールを色々な形に繰り抜いて的を作り，ボールを的に目掛けて投げる的当てゲームです。ダンボールをハートやクマの形に一生懸命にカッターで繰り抜いて準備をしている姿を見て，本当に成長したなあと感じました。さらに，先週にはレクリエーションのリーダーも担当してもらいました。リーダーは 40 分近いレクリエーションを仕切り，進行する仕事です。利用者の中には耳が遠い方も多いので，大きな声を出さなければなりません。またルールも分かりやすく説明しなければなりません。ほかの職員の力を借りつつ，照れながらもこの大役を頑張ってくれていました。今後は，送迎の仕事にも出てみたいという希望を聞いていますので，是非チャレンジしてもらいたいと考えています。

４月から職員として働き始めて，大川口さんにはたくさんの変化や成長が見られました。まず，利用者に対する表情が変わりました。実習のときは挨拶の声も小さく，笑顔も少し硬かったのですが，最近ではいつもにこにこと自然な表情で仕事をしてくれています。また，最初の頃は頼まれた仕事をしてくれていただけでしたが，最近では自分で考えて仕事をしてくれるようになりました。例えば，塗り絵が

なかったら本から探してコピーしたり，利用者が退屈そうにしていたら自分で考えた切り絵をしてくれたりしています。このような大川口さんの成長を見ていると，とてもうれしく頼もしく感じます。

最後になりますが，今回の大川口さんの受入れから今までを振り返ってみますと，本当に私たちが期待していた以上でした。これは大川口さんの頑張りが一番なのですが，もう一つには，スタッフ全員が大川口さんを温かく迎え見守る中で仕事をすることができたデイセンター右京山ノ内の環境にもあると思います。始めは，掃除やお茶出ししかしてもらうことがないかもしれないと思っていました。しかし，「障害を持っているからここまでしかできないだろう」などという先入観を持たず，大川口さん本人を見て，色々な仕事にチャレンジしてもらったことが，今回良い結果に結び付いたと考えています。鳴滝総合支援学校高等部の先生方からも，支援学校の卒業生が福祉の現場でここまで実践的な仕事に携わっているのは初めてのケースだとお聞きしています。ここでのケースが良い見本となって，今後，支援学校の後輩の方々の仕事が少しでも広まるようになればうれしく思います。私たちは，これからも大川口さんを職員全員で見守り，応援しながら，一緒に楽しく仕事をしていきたいと思っています。

これで私からの発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

〇司会

ありがとうございました。今の発表で御質問などございませんか。

全体を通して御質問や御意見はありませんか。

支援学校の関係者としてお聞きしたいのですが，事業所では実習生を受け入れる前の打合せには，かなり時間は取られたんでしょうか。

〇大坪

支援学校から実習の話をいただいてから職員とも話し合ったんですが，みんな障害に対する知識が余りなかったので，それを一番不安に思っていました。学校の先生にも，大川口さんにどれぐらいの仕事をお願いしたらいいかなどについてお尋ねしたんですけれども，明確にはお答えいただけませんでした。この子はこういうことが苦手ですよ，ここまでこういうこともできますよと，具体的な話を聞かせていただければ，非常に役に立ったのではないでしょうか。

〇会場

実習の受入れに当たり，仕事内容と職員の対応について，事前の話合いをしました。まず，仕事内容については，実際にやっていただかないと分からないことの方が多かったので，仕事内容を洗い出してチェックリストを作りました。そのチェックリストの中から，最初は本当に簡単な仕事を選び，それら

ができたら次の仕事という形を取っていこうということになりました。それから職員の対応ですが，指導する職員によって違うことを言ってしまうと，御本人も混乱すると思いますので，そのようなことがないように注意しようという話をしました。実際は，複数の仕事の説明を同時にしてしまったこともあり，御本人にとっては少し分かりづらかったそうです。学校側とも，もう少し事前の話合いができた方がいいかなと思いました。

○会場

私は一般企業に勤めていて，障害をお持ちの方と一緒に仕事をさせてもらうのは６年目になります。現在，ＬＤ（学習障害）と重複して，アスペルガーとＡＤＨＧ（成長ホルモン分泌不全症）をお持ちの方と一緒に仕事をしていますが，今おっしゃったように事前の情報がほとんどない場合が本当に多いですよね。それから，御家族との話合いはされたのかなと思います。

一番大切なのは，家庭環境と障害をお持ちの御本人のコンプレックスだと思っているんですよ。個人情報保護法の関係もあるとは思いますが，企業は家庭環境や親御さんの考え方などの情報をどのくらい知っておられるのでしょうか。

○司会

実習や就労でお世話になるときに，学校からそのような話をされると思うんです。数回の実習で得られる個人情報もあると思いますが，進路の担当教師としては，その企業に長くお世話になりたいと思うがゆえに，実習に関する内容は話をさせてもらいますが，情報提供できることにはやはり限界があります。採用が決まった場合には，学校が把握している全ての情報を調査書というもので提出させていただいていますね。なかなか読んでいただけないんですけれども，後になって問題が起きたときに見てもらったら，ちゃんと書いてありましたねという話も結構あります。

ところで，進路関係の先生はどうですか。

○会場

呉竹総合支援学校の進路担当です。普通科の学校ですので，企業に実習に行く生徒の数は少ないんですけれども，１年生や２年生の段階で職場体験をさせていただき，真剣に働くことを考え，自分の卒業後の身の振り方を考えていく目的で，企業に実習を依頼することは，年間を通じてよくあります。就労に結び付ける実習というよりも，働くことを学習として考えていますので，私たちの学校の場合には，「本人はこのような仕事ができます。このような指示の仕方であれば理解が進みます。こういう幾つもの指示を色々な方から１度にされると混乱するので，できれば窓口は１本化してくださると助かりま

す」というような，主に仕事をするうえで必要となる本人の情報を，企業には伝えていこうと思っています。

○司会

　ありがとうございました。

　ところで，私は卒業生二人に聞きたいんですが，まず髙橋さんはいつ頃勤めて頑張ろうと思いましたか。

○髙橋

　私が働こうと思ったきっかけは，中学生の福祉の生き方チャレンジです。私の祖母も修学院デイサービスセンターで役員のボランティアとして手伝いをしていて，私も小さい頃から祖母と一緒にセンターに行って，利用者の方々と話をしたり色々なことを手伝わせてもらいました。そのことを御存知だった先生から，福祉の生き方チャレンジに選んでいただきました。そのとき私は，ここで人の役に立ちたいなと思いました。また，独り暮らしをしたいので，福祉の勉強をすることによって日常生活や洗濯や料理もできるようになるということもあって，福祉の仕事を目指しました。

　ホームヘルパー２級の試験が終わった後，イリオスで最初の実習をさせていただき，ここで是非働きたいと思いました。

○司会

　分かりました。ありがとうございます。

　大川口さんはどうですか。

○大川口

　私は発表したとおりなんですが，１回目の実習からこの洛和デイセンター右京山ノ内で働きたいと思いました。決め手になった理由は，雰囲気が良く職員も利用者も優しく迎え入れてくれたことです。

○会場

　大川口さんは，家事や家の手伝いはよくしましたか。

○大川口

　はい，しました。実は今，独り暮らしをしています。

○司会

事業所の方にお聞きしたいんですが，何がこの子を雇おうという決め手だったのでしょうか。企業秘密かもしれませんが，少しでもあれば教えていただきたいんです。

○大坪

始めは学校の先生から，「掃除などでお願いします。トイレでもお風呂でも掃除します」とお聞きしていましたので，掃除がメインになるのかなと思っていたんですが，仕事を一緒にしているうちに，もっとできると分かってきました。色々な仕事をしてもらえる可能性を感じます。発表でも言ったように，行き過ぎず引き過ぎずという感じで，利用者とすごく良い距離感で接してくれて，いつもにこにこと利用者の話を聞いてくれる姿を見て，大川口さんを採用しようと思いました。

○司会

ありがとうございます。

村上さんもよろしいでしょうか。

○村上

まず，掃除業務というのは簡単なんですけれど，逆に手を抜こうと思えば抜ける仕事でもあったりするんです。実習のときに，床を拭いたりする一つ一つの作業とかがすごく細かく丁寧だったというのもありますし，分からないことも自分なりに考えて一応はやってみるんですが，そこでまた職員に聞いてくれるというところがあったので，私たちの施設長もそういった姿を見て，就職できるのではないかと判断したのだと思います。

○司会

ありがとうございます。

それでは，これから実習をする方々や実習中の宮嶋さんに，先輩として何か，実習中はこういうことを頑張ったらいいんだよなどというアドバイスはありませんか。

○宮嶋

私も学生のときは先輩たちに色々なことを教えていただいて，今，社会人として後輩の方々に何を伝えたらいいのかよく分からないんですが，とにかく何事にも一生懸命に頑張って，自分はここで働きた

いという意欲があったら，それで大丈夫だと思います。とにかく努力をして手を抜かずに仕事をすれば，誰かが見てくれていると思いますので，頑張ってください。

○大川口

しんどいときには自分でため込まないで，誰でも良いので相談をしてほしいと思います。これからも頑張ってください。

○司会

宮嶋さんが今実習をしているホンダカーズ京都北山店の方が来ておられますので，実習中の様子を少しお聞きしたいんですが，よろしいでしょうか。

○会場

ホンダカーズ京都北山店でサービスをやっています。私が北山店に来てからまだ１年しかたっていないんですけれども，宮嶋さんとはその間に７月と 10 月の２回，一緒に仕事をさせてもらいました。元々ラグビーをしていたということも聞きましたし，体格も良いので心配はしてなかったんですが，夏場も見事に乗り切ってくれましたし，そのときに，基本的な洗車機の使い方や一連の流れはほとんど覚えてくれました。今日も色々な方の発表の中で，仕事をきちんと覚えてくれることをやはりやる気と感じるという声がありましたが，宮嶋さんについては，これはすごいなと夏の時点で感じました。私自身も３箇月前にしたことをどれだけ覚えられているか不安に思いながら仕事をしているものですから，宮嶋さんが分かって仕事をしてくれていたのが非常に印象に残りました。ですので，髙橋さんもおっしゃっていましたけれども，本当に大事なのは気持ちだと思いますし，それを私たちの方もくみ取れるかというところが大きなポイントになってくるのかなと思っています。彼の仕事ぶりはまだまだこれからですので，こちらとしても失敗したときが一番心配ではあるんですが，そこはもう本人の気持ちです。失敗後に心を新たにして，どう考えるか，どう思って仕事をするかということが大切だと思います。そういうところは，宮嶋さんは私にとってもお手本だと思っています。

○司会

ありがとうございました。

○会場

鳴滝総合支援学校の進路担当です。今日５年表彰を受けていただいた日本新薬株式会社の方が来られ

ているので，卒業生の就労の継続のために会社の方ではどんな努力をしていただいているのか，是非お聞かせいただきたいと思います。

○会場

日本新薬株式会社人事部から参りました。よろしくお願いいたします。

弊社では２名採用しておりまして，今日は皆さんの前で５年表彰をしていただきました。これも学校の先生方や周りの方の御協力の賜物だと思っていますので，まずは御礼を申し上げます。

雇用の継続について話をということなんですが，まずは，５年を目指してやってきたのではなく，気が付いたら５年がたっていたということです。それから，障害があるからとか，その障害をどうしようかということを考えるのではなく，できることを一つ一つ積み重ねていった結果がここにあるのではないかという風に考えています。まだ５年目ということで，この先も彼らには長く働いてもらわなくてはいけませんので，これからも社内で何かできることを一つずつ探していって，できることを増やしていってあげたいなと考えています。

○会場

私は佐賀県立中原特別支援学校に在籍しているんですが，今度私たちの学校で職業コースを立ち上げます。先進校である京都の取組について勉強しに来て，たくさん学ぶことができました。

まず，卒業生と在校生の発表を聞き，本当に自分で生きていくんだという意気込みを持って働いておられる姿を見て，帰ったらまずそのことを生徒に話したいと思います。それから，私は鳴滝総合支援学校で今少し研修をさせていただいているんですけれども，そのほかの学校の取組や，生徒を中心としたネットワーク作りが本当に大切だなと感じました。企業や事業所の立場からすると，卒業生の方々や，実習を受けている生徒たちを育てていくために，どのようなネットワークを持っておいたらいいのでしょうか。先ほども話に出ましたが，卒業して事業所に就職した後に，コミュニケーションが取りにくいなどといった部分に気付かれることもあるのではないかと思います。事業所で誰か１人を専任で指導担当にするなど，色々な支援をしていくのはとても良いことだと思うんですけれども，指導担当者と学校の進路担当が情報交換するためのネットワークは，今現在あるのでしょうか。どのようなネットワーク作りをしていけば良いのかということについて，色々な立場から御意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○村上

支援学校から来られた方の場合ですと，学校の先生に直接指導に来ていただいたときなどに話す機会

があります。しかし，それぞれの現場で指導をする職員は，どうしても別々の異なる職員になってしまいますので，やはり企業の中で指導する職員同士で話し合う場を設けて，そこに少し学校の先生に入っていただくといったようなネットワークが，今後は必要ではないか思います。私が聞いていたことを，現場の指導員に伝えきれていなかったこともあります。やはり，定期的に話合いや交流会的なものもあれば良いのかなと思います。

○大坪

実習に来られていたときは，実習が終わる度に，先生とお母様が来てくださって話もする機会があったんですけれども，職員として働き始めてからは，学校と連絡を取る機会がなかったのは事実ですね。25 年度も鳴滝総合支援学校から実習生の受け入れる予定ですので，私たちもその支援学校でどんなことをされているのか知るために，学校の見学にも一度伺いたいと思っています。

○司会

ありがとうございます。

今存在しているネットワークのことですが，どこの総合支援学校もアフターという形で，卒業生が就職した企業を訪問しています。進路の担当になった先生は，企業にはなるべく早く行った方が良いのか，しばらく慣れるまで邪魔をしない方が良いのか悩み，結果的には問題が起きてから行くことになったりします。４月に就職した生徒の場合，その指導担当の方などと早めに話合いの機会を持った方が良いのでしょうか。またそれは可能なんでしょうか。

○村上

そうですね。問題が起きてからよりも，なるべく早い方が良いと私は思います。また，時期については，事前に計画していただけたら，調整は可能だと思います。

○司会

ほかの企業ではいかがでしょうか。半年後の方が良いという会社もあると思うんですが。

○会場

時期としては，１箇月とか３箇月とか，区切りのところで考えるかもしれません。企業にとっては，学校の担当者などが，何か相談をしたいときの窓口になってくださると有り難いです。先生が異動をしていなくなったり，卒業まで面倒を見ていた先生が辞められたりしたときに，引き継ぎをきちんとして

企業側に情報をいただければ，逆に何か問題があったときに企業からも声を掛けやすいのではないかと思います。

○会場

私は佐賀県教育委員会から，行政の立場でということで参加させていただきました。実は，佐賀県ではまだ特別支援学校が設置されていません。来年度初めて職業コースを設置しますので，企業，関係団体，学校，行政等を含めたネットワークをどうしていくのかということや，学校と企業とのパートナーシップをどうつなげていくのかなどについて勉強に伺いました。

今日はまず，在校生や卒業生が自ら情報発信されているということと，その隣に会社の方が一緒に座ってやはり色々な情報発信をされているということが，非常に印象深かったです。おそらく，京都市全体として，これまで支援学校や企業とネットワーク作りを積み重ねて来られた結果ではないかと思いました。佐賀県も今後はこういったネットワークを是非構築していきたいと思っていますし，こういった先進的な取組を参考にしながら，佐賀県版というものを作っていきたいとも思っています。どこかで佐賀県の就労支援や教育の中での取組について，目にされたり耳にされたら，今日の体験が活かされたんだなと思っていただければ幸いです。今日はありがとうございました。

○司会

ありがとうございました。

ここで閉会の挨拶を，鳴滝総合支援学校校長の藤谷より申し上げます。

○藤谷

皆さん，遅くまでありがとうございます。今日は，白河総合支援学校の在校生の宮嶋さん，それから鳴滝総合支援学校の卒業生の髙橋さんと大川口さん，発表をどうもありがとうございました。また，洛和会の方々もありがとうございました。

最後に私の方から，支援学校全体の総括としての話を少しさせていただきたいと思います。

随分前のことですが，１人の生徒を小さな企業に推薦しました。就職して２週間後に学校へ遊びに来たので，「どうしたの」と聞いたら，「ひどいことを言われて辞めた」と言うんですよ。色々と聞いてみると，仕事で同じ失敗を２回してしまったら，「何だ。それは」と叱られたそうです。学校では，生徒の就労を目指して取り組んでいるわけですが，子どもが失敗したときには，「どうして失敗したんだろうね」ということを含めて，「次は頑張ろうね」と指導します。２回目に失敗しても「どうして失敗したんだろうね」ということから始め，「次は頑張ろうね」。３回目も同じです。でも，企業では２回目に

なったら「何だ。それは」と叱られるんですね。子どもはそれだけでどきっとして，体調不良になって辞めてしまう場合が多かったんです。私たち職員は，子どもにそのような現実の厳しさということも教えたいし，指導したいと思っています。

しかし，支援学校は職業訓練校ではないのです。教育の中で，社会の現実にはこんなに厳しいところもありますよということも教えていかなくてはなりません。こういうことの難しさを本当に日々感じております。子どもに現実を学ばせながら，同時に家族的な配慮の中で指導しているというのが実状だということを，企業の方々に御理解いただけたらなという風に思っています。是非子どもの様子を，学校の様子を，見に来ていただけたら一番有り難いです。何ができるんだろうかということについては，子どもの様子を見ていただいて，そして企業と相談をしながらやっていきたいと思っています。

今日の発表の中でも，１箇月の実習という話がありましたが，これも企業の御理解によって得られた機会です。１箇月間，子どもの様子を見ていただくと，状態が良いときもあれば良くないときもあることが分かります。そういうところを企業に理解していただいて，長い期間で実習等をさせていただけるのは，非常に有り難いことだと感謝しております。これが１週間で終わっていたら，そんなに多くのことは分かりません。

１人でも多くの子どもが社会自立・職業自立することができますように，今後とも御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

（第３分科会　終了）